

佐久市文化財保護審議会 会議次第

日 時 平成26年4月23日(水)

午前10時00分～

場 所 野沢会館 203会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 異動職員紹介

4 会議内容

(1) 協議事項

ア 福王寺絹本着色愛染明王像の文化財指定について・・・資料1

(2) 報告事項

ア 重要文化財旧中込学校防災修理整備工事について・・・資料2

イ 平成25年度文化財の補修等について・・・資料3

ウ 平成26年2月の大雪に係る文化財の状況について

(3) その他

5 閉 会



資料No. 1

平成26年4月1日

佐久市教育委員会 様

佐久市協和1054番地

宗教法人 福王寺

代表役員 桑沢俊胤



佐久市有形文化財指定申請について

1 種 別

有形文化財

2 名 称

福王寺絹本着色愛染明王像

(ふくおうじけんぼんちやくしよくあいぜんみょうおうぞう)

3 所 在 地

佐久市協和1054番地

宗教法人 福王寺

4 所有者住所・氏名

佐久市協和1054番地

宗教法人 福王寺

代表役員 桑沢俊胤 (福王寺住職)

5 申請理由

福王寺は、寺伝によれば平安時代大同3年の開基とされ、平安時代から鎌倉時代、江戸時代等の仏像を複数安置する古刹である。

鎌倉時代の阿弥陀如来坐像は、国の重要文化財に指定されている。

申請物件の『福王寺絹本着色愛染明王像』(条幅)は、福王寺に残る江戸時代の「福王寺財産目録」に、「愛染明王軸」と記載されていることから、それ以前から寺に伝わっていたことがわかる。

物件の制作時期及び評価は、調査書(別添)によれば、14世紀の鎌倉末から南北朝にかかる頃と判断され、長野県下に鎌倉時代に遡る本格的な密教画は少なく本図の価値には大きなものがある。とされているように、佐久市に及ばず長野県においても屈指の仏教絵画として重要との評価である。

物件は歴史的にも地域に根差した数少ない貴重な仏教絵画であり、佐久市の指定文化財として保護保存していく必要があると思われ、佐久市有形文化財指定申請を行うものである。

6 物件概要

物件は、本体 縦92.5cm、横51.5cm、の絹本製で、仏具表具仕立ての条幅である。

製作年代は、オーソドックスな図様であること、確かな線描の技術がみられること、目のつんだ絹が用いられていることなどから見て、本図の制作期は鎌倉末から南北朝にかかる頃の14世紀と判断される。平安時代の開基とされる福王寺には、平安時代、鎌倉時代を中心に江戸時代までの複数の仏像が安置され、中でも鎌倉時代の国重要文化財阿弥陀如来坐像は有名である。物件は14世紀の作であり、一連の平安から鎌倉における仏像群とともに、同寺に存在していたことは容易に想像がつく。

なお、本物件の学術調査は、長野県文化財保護審議会委員で仏教絵画が専門の、跡見学園女子大学文学部人文学科教授の矢島新氏が実施し、その添付調査書をもって物件の概要とするものである。

7 物件の現状及び現在までの保存の経緯

福王寺に残る江戸時代の「福王寺財産目録」に、「愛染明王軸」と記載されており、それ以前から寺に伝わる物件として活用ないしは保存されてきた経緯が読み取れる。その後も同寺で活用または保存されていたとみられ、福王寺を称する書類とともに明治半ばまでは所有していたことがわかっている。その後本物件が発見される平成14年までは物件は何らかの事情で行方が不明となっていた。物件の存在が分かったのは平成14年になって寺関係者と美術商からの連絡であった。箱書きに「福翁寺」と明記され、関係書類も「協和村福王寺」と明記され同寺のものであることが確認されたため、福王寺及び福王寺護持会においてこれを入手した。その後、同寺で保護及び展示も兼ねた保管ケース（強化ガラス厨子形展示保管ケース）を製作し、保護保存に努めている。

8 物件の将来にわたる保護の概要

物件は仏具として長年使用してきたものであり、劣化は当然であるとするが、部分的な絹本部の剝落や横方向の折れ目が目立つ。現状以上の劣化は少ないとは思われるが、貴重な物件であることを勘案して、今後劣化が進行しないよう保存修理して保護および活用を図ることが望ましいと考えている。

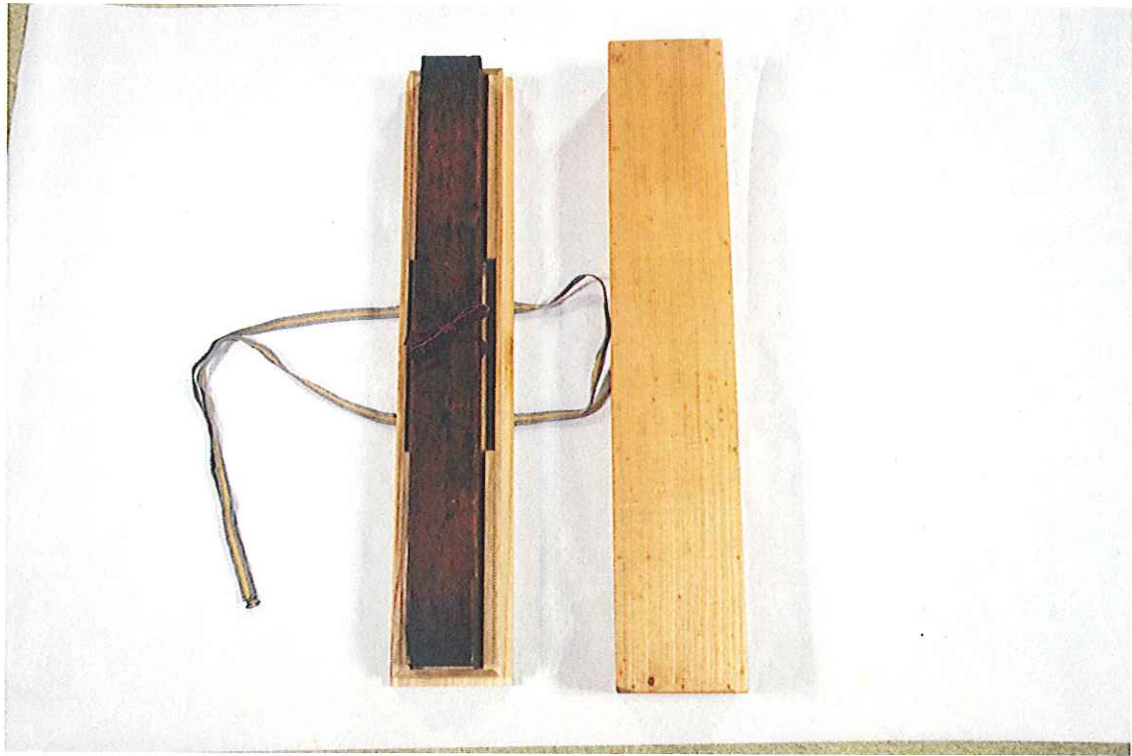
将来にわたって保護していくに際し、所有者福王寺と福王寺護持会が積極的に維持管理に努めていくとともに、必要に応じて公開し市民への周知と活用に努めていく所存である。

(添付資料)

- 1 調査写真
福王寺絹本着色愛染明王像関係写真一式
- 2 物件の学術的資料
福王寺絹本着色愛染明王像調査書
- 3 佐久市指定有形文化財指定同意書



「福王寺絹本着色愛染明王像」条幅



「福王寺絹本着色愛染明王像」箱（現在二重箱に収納）



「福王寺絹本着色愛染明王像」箱 「福翁寺」墨書

調査書

調査物件 絹本著色愛染明王像
調査日 平成 25 年 10 月 21 日
調査場所 佐久市協和 福王寺

愛染明王は真言密教の尊格で、密教の中心的菩薩である金剛薩埵の本誓に応じて出現し、人間の欲望をそのまま浄菩提心に至らしめるといふ。全身赤色で、三目にして六臂、頭に獅子の冠をいただき、顔は怒りの相に表される。平安時代以降貴顕の信仰を集めたが、平安時代に遡る画像は一例が知られるのみである。鎌倉時代にも篤い信仰は続いており、画像、彫像ともに多くの作例が残されている。

福王寺が所蔵する一本は、十四世紀に遡ると見られる古例である。縦九十二・五cm、横五十一・五cmを計る絹地に、正面向きの愛染明王を大きく描き出している。明王は赤色の蓮華座上に結跏趺坐し、その全体は熾盛光輪という火炎を抽象化した赤色の円相内に収められている。

胸前に構えた右第一手には金剛杵（五鈷）、右第二手には矢、高く挙げた第三手には蓮華、左第一手には金剛鈴、第二手には弓を持つ。左第三手は拳のままとし、様々な修法に対応する姿である。明王の下方には通例のごとく宝瓶を描き、周囲には宝瓶から湧き出した宝珠などの宝物が描かれるが、残念ながら画面下部は絹の欠損が目立ち、図様がはっきりとしない。

平安時代に遡る細見美術財団本（国指定重要文化財）と比較すると、左第三手の持物や、円相内の火炎の描写の有無が異なるものの、持物をとる腕などの図様は良く似ている。鎌倉時代末期の制作と見られる宝山寺本（国指定重要文化財）は、矢の構え方などの図様の細部に違いが見られるものの、図像的にはほぼ一致している。そのように福王寺所蔵本は、愛染明王の典型的な図像を描くものと言える。

表現の点では優れた線描の技術が各所にうかがえる。頭髪は金泥線と墨線を交互に配して質感を表現しているが、線はやわらかく伸びやかで、繊細である。熾盛光輪中の火炎は墨線で表現されるが、こちらも同様の伸びやかな線である。本図の第一の見所は、そのような線描技術であろう。また目の表現などは実に繊細で、小さな黒い瞳の周りを細い金泥線でくくり、その周りを赤く塗って墨線で縁取り、さらに白目を塗ってその周囲を暈している。

金泥による装飾が各所に施されるが、その技術は確かである。装身具などはかなり厚くしっかりと塗られている。円相や下部の床面を示す界線は切金であろう。緑青と思われる顔料が黒化するなど全体に傷みが激しいが、赤と金を主体とした当初の彩色は、かなり華やかであったと思われる。

以上、オーソドックスな図様であること、確かな線描の技術が見られること、目のつんだ絹が用いられていることなどから見て、本図の制作期は鎌倉末から南北朝にかかる頃の、十四世紀前半と判断されよう。長野県下に鎌倉時代に遡る本格的な密教画は少なく、画面の劣化が惜しまれるとはいえ、本図の価値には大きなものがある。

平成 25 年 10 月 30 日

〒195-0073 町田市薬師台 3-269-5

跡見学園女子大学教授 矢島新

平成26年4月1日

佐久市教育委員会 様

佐久市協和1054番地

宗教法人 福王寺

代表役員 桑澤俊



佐久市指定有形文化財指定同意書

私の所有する下記の文化財を貴委員会が佐久市指定文化財に指定することに同意します。

記

種 類	有形文化財（条幅）
名 称 及 び 員 数	福王寺絹本着色愛染明王像 1

重要文化財旧中込学校建造物保存修理事業

- 1 工事名 旧中込学校防災修理整備工事
- 2 工事場所 長野県佐久市中込1877番地
- 3 工期 平成26年3月27日～平成27年6月30日
- 4 建造物概要
- (1) 名称 重要文化財 旧中込学校（昭和44年3月12日指定）
- (2) 構造形式 木造、二階建、棧瓦葺、正面玄関及び中央八角塔屋付

4 工事概要

耐震補強工事は、平成21年度に実施した「重要文化財旧中込学校校舎耐震診断」に基づき、内部土壁及び板壁一部の下地に構造用合板による耐震壁の設置、2階廊下床面に構造用合板による水平構面の設置を行う。また、塔屋耐震対策として小屋組内の柱等に筋違を設置する。

保存修理工事は、全体に経年による破損が見られているため破損部の修理として、外部壁は漆喰塗及び窓額縁の黒漆喰塗の塗直しを行い、内部壁は化粧直しを行う。屋根棧瓦葺は破損部分の差替え等を行う。各部の修理については、文化財建造物保存修理として在来の材料・工法に倣うものとする。

(1) 仮設工事・・・P10

境界柵（ガードフェンス）、外部足場、内部足場等

(2) 耐震補強工事・・・P11・12・13

木部解体、土壁解体、土壁・板壁合板耐力壁設置、2階床水平構面設置、小屋裏補強筋違設置等

(3) 屋根工事・・・P14

瓦解体・差替え、四隅棟積破損部の積み直し等

(4) 左官工事・・・P15

外壁漆喰塗直し及び内部漆喰壁化粧直し、窓額縁黒漆喰塗直し等

(5) 建具工事

窓の上げ下げガラス戸・鎧戸の木部補修、立て付け調整及び金具補修等

(6) 塗装工事

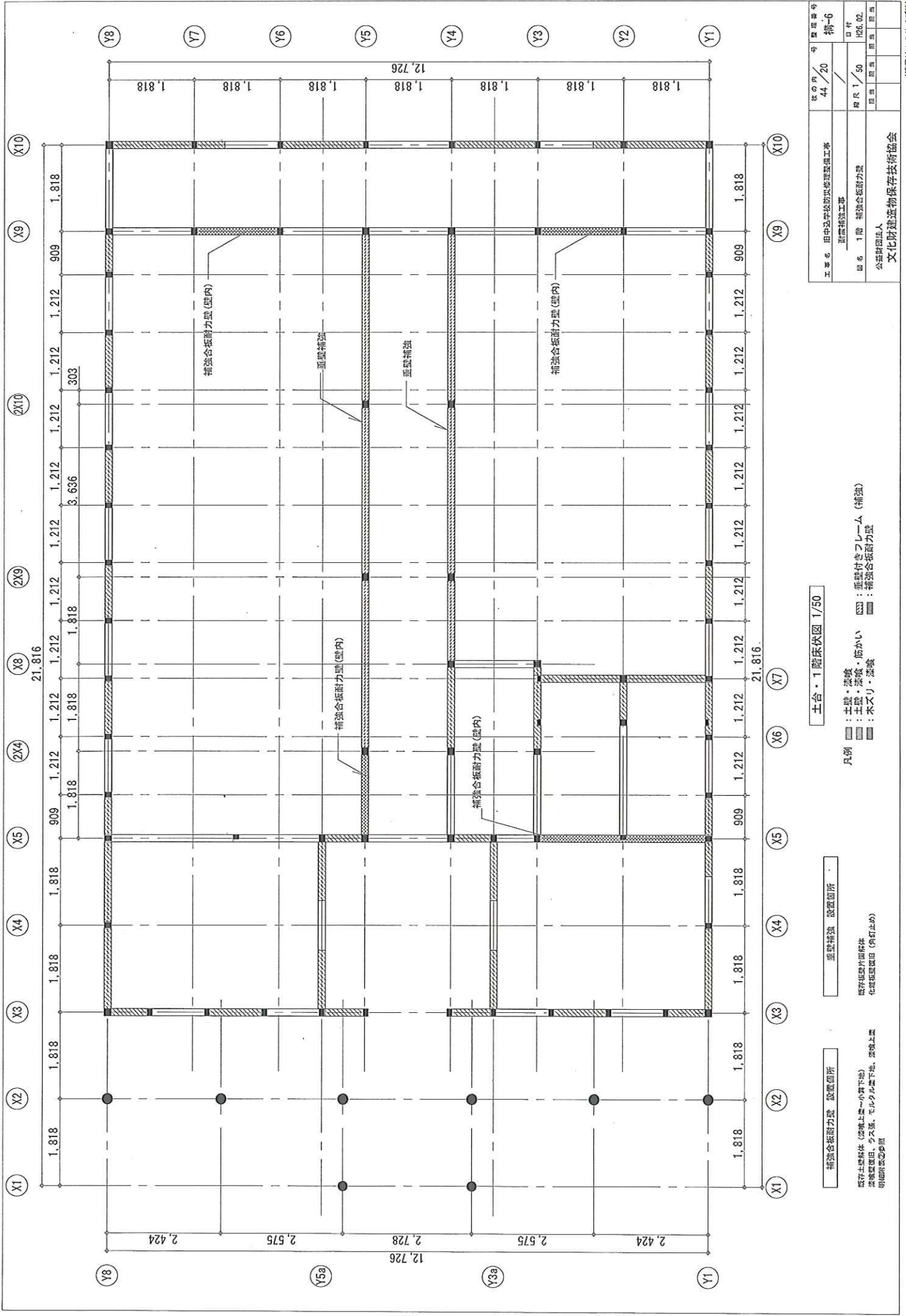
劣化塗膜剥がし及び塗装、腰下見板黒塗等

(7) 表具工事

2階紙貼天井貼り直し

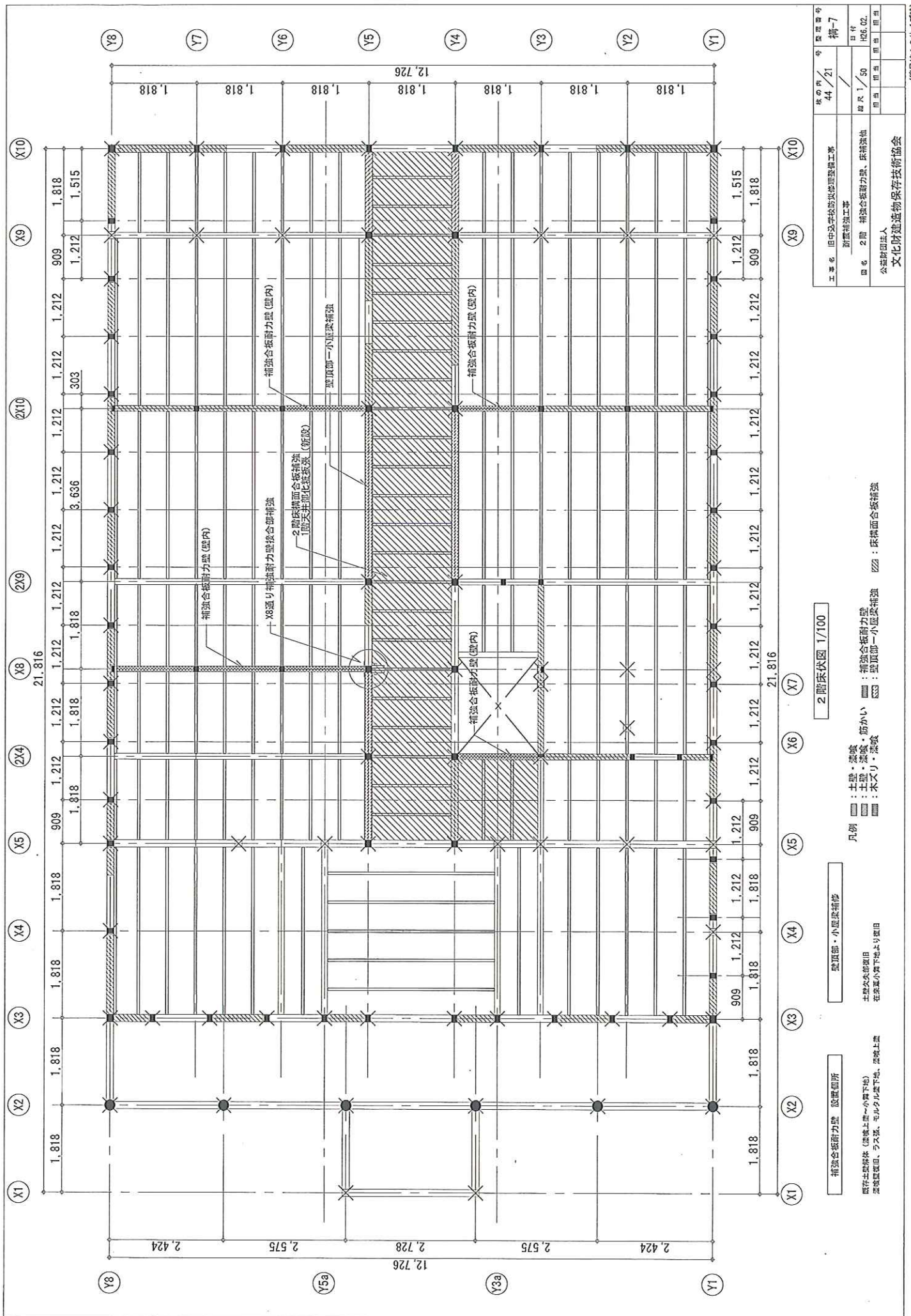
(8) 雑工事

踏石据直し、蔦石据直し、正面ベランダ両端部柱礎石補修、木部補修、軒樋補修等



工事名	旧中込学校防犯設備改修工事	図号	44/20
種別	防犯補強工事	図名	構-6
図名	1階 補強合板耐力壁	図尺	1/50
図尺	1/50	図名	図名
図名	公共財団法人	図名	図名
図名	文化財建造物保存技術協会	図名	図名

(縮尺はA2サイズ時)



工事名	旧中津学校防災管理設備工事	図面番号	44 / 21
図名	2階 補強合板耐力壁、床補強	図尺	1 / 50
作成者	公益財団法人 文化財建造物保存技術協会	図面	面当
校印		面当	
校章		面当	
校名		面当	

2階床状図 1/100

凡例

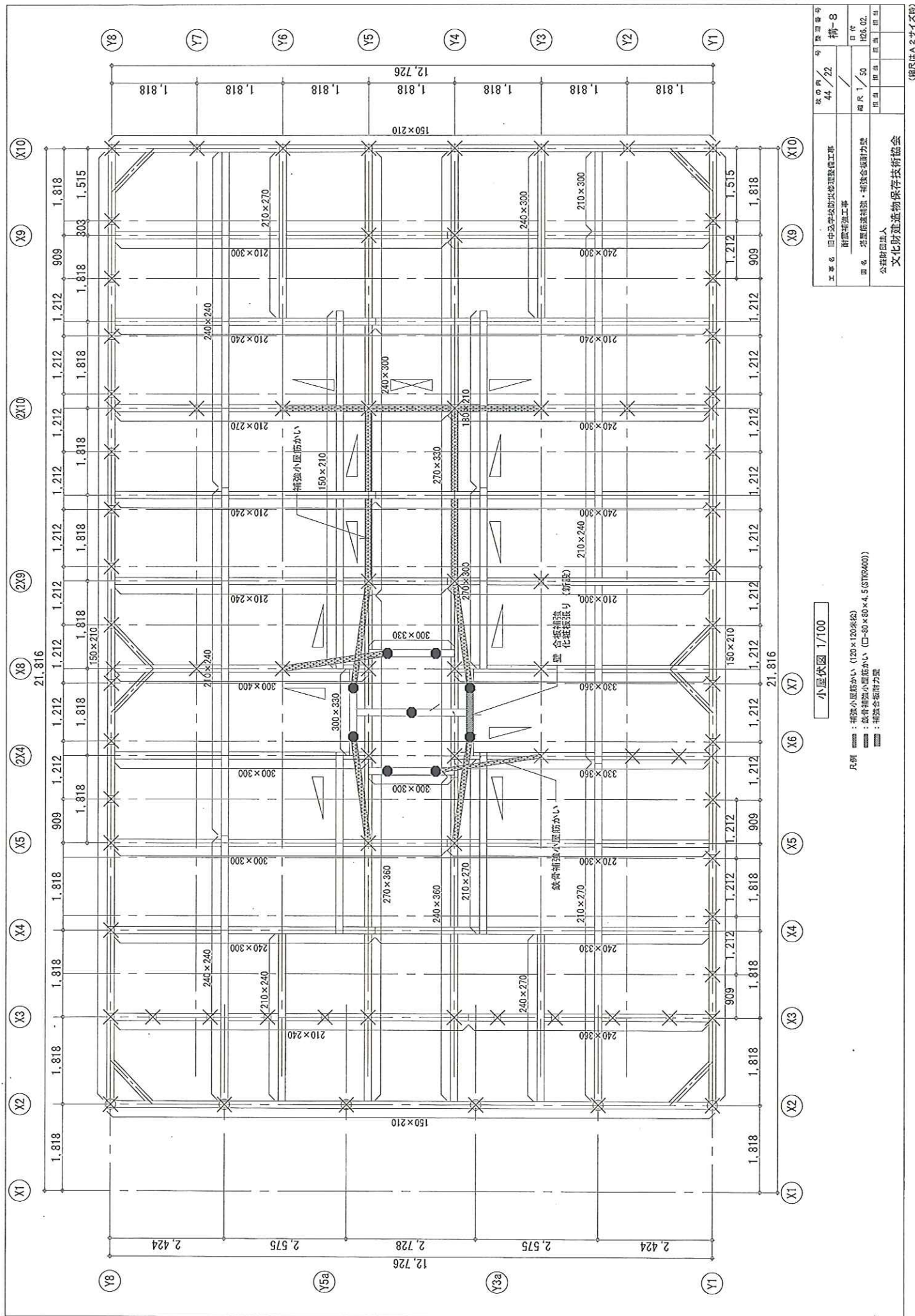
- : 土壁・梁
- ▨ : 土壁・梁・筋かい
- ▧ : 補強合板耐力壁
- ▩ : 土壁・梁・筋かい
- : 壁頂部一小段長補強
- : 床構面合板補強
- ▬ : 木張り・梁
- ▭ : 壁頂部一小段長補強

壁頂部・小段長補強

土壁・梁・筋かい
在床下地より張り

補強合板耐力壁 設置箇所

既存土壁解体 (梁上壁・小間下地)
設置箇所、ラック、モルタル塗下地、梁上壁

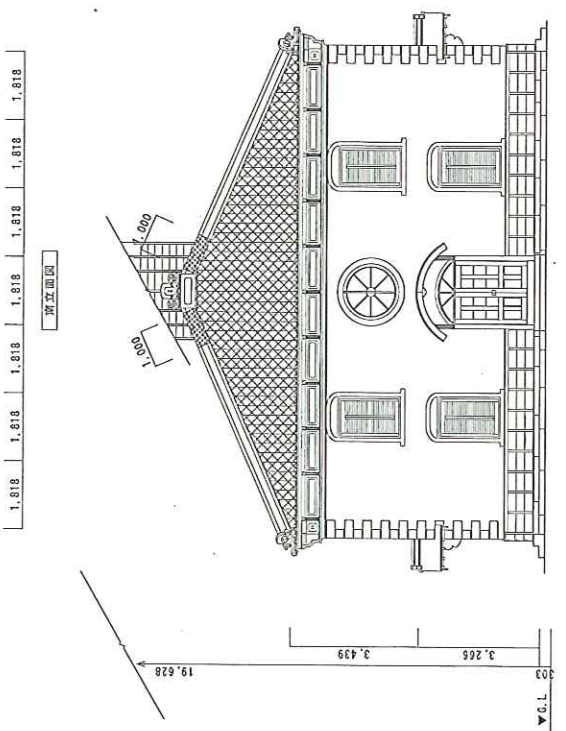
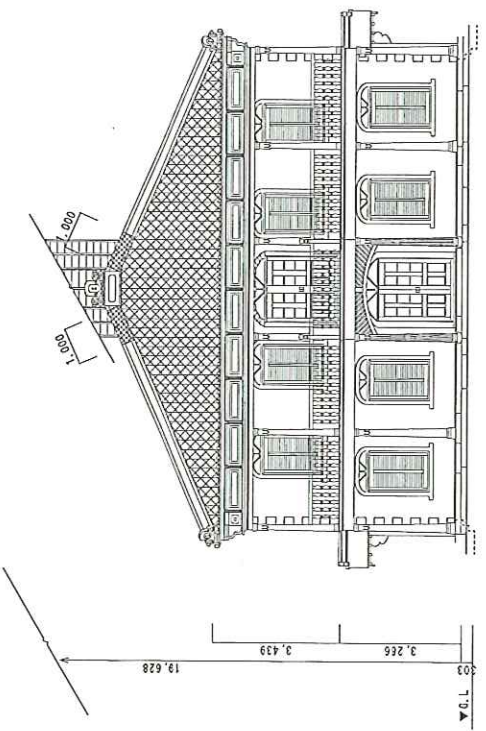
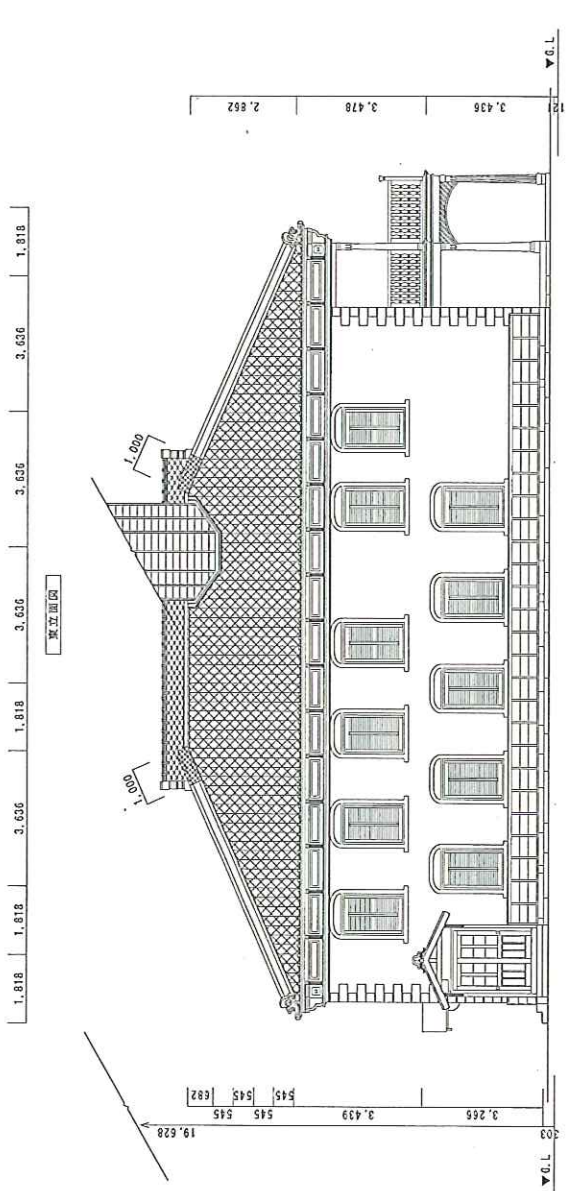
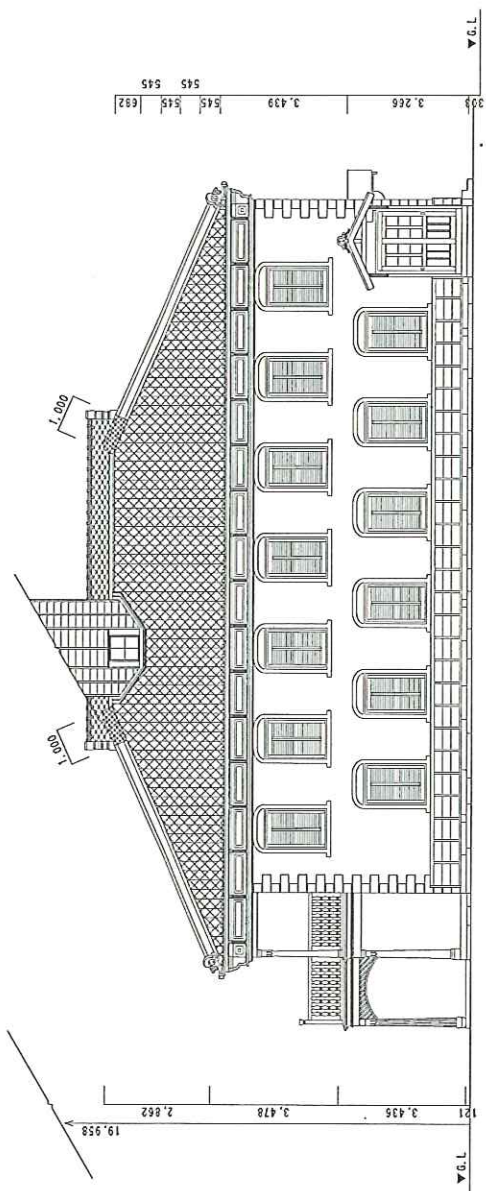


小断面図 1/100

凡例
 ■■■■ : 補強小断面かい (120×120単位)
 ■■■■ : 鉄筋補強小断面かい (□-80×80×4.5 (STR400))
 ■■■■ : 補強合板耐力壁

工事名	旧中京学院防災校修理補強工事	図面番号	44/22
種別	耐震補強工事	設計者	構-8
図名	塔屋筋力補強・補強合板耐力壁	縮尺	1/50
公認印押入	文化財建造物保存技術協会	担当者	

(単位はA2まで省略)



西立面図

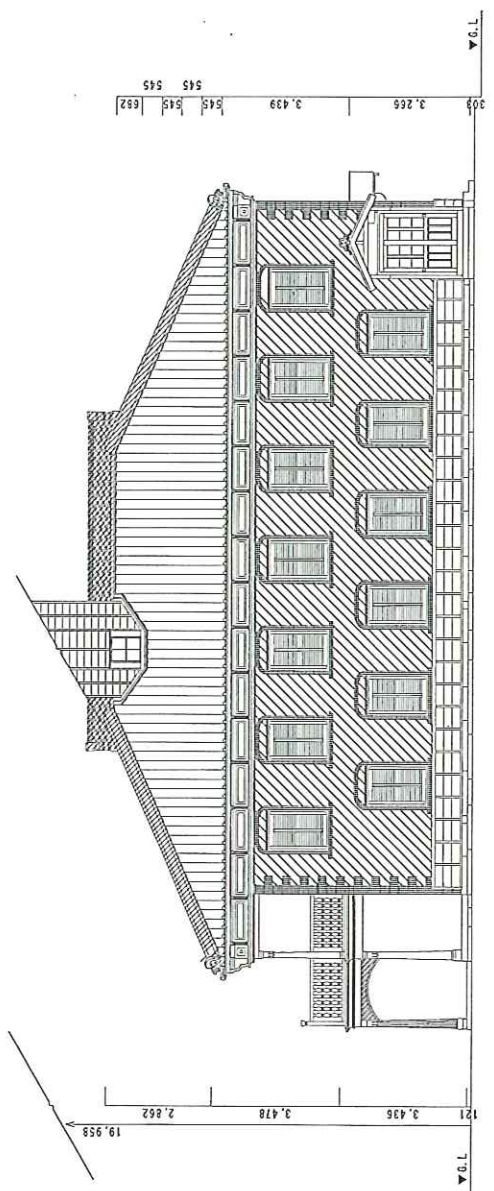
補足瓦	いぶし瓦	50枚
軒瓦	長34.2cm 幅31.2cm 厚1.7cm 瓦足1.7cm 唐草紋・小巴紋付	200枚
椽瓦	長30.6cm 幅30.8cm 厚1.7cm 瓦足1.8cm	20枚
瓦斗瓦	長25cm 幅12cm 厚1.5cm	5枚
腰瓦	長23.0cm 幅24cm 厚2.0cm	

北立面図

×	平瓦修正部分 (渡部の変替、平瓦修正、点検等)
■	檜根継 積直し部分 (渡部部) の瓦斗瓦1段、腰瓦斗瓦3段、腰瓦

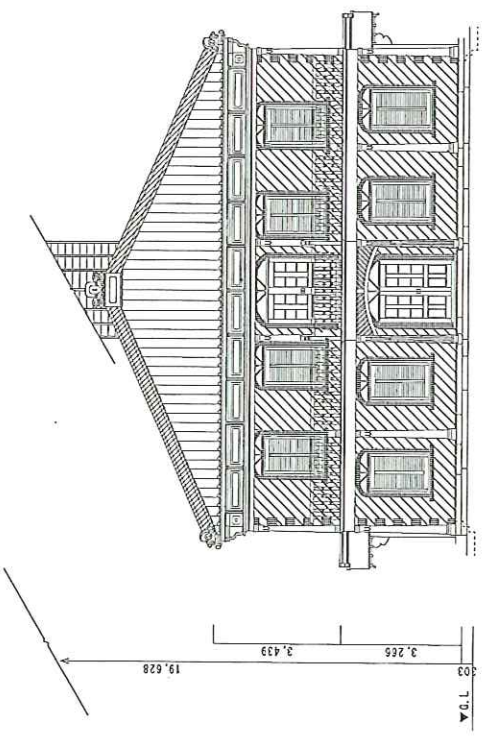
2024年 第44号
 原標工事
 旧中込中学校跡地修理工事
 各面平瓦二枚積補修箇所
 面積1/10
 竣工日
 2024年 11月 15日
 設計者
 公益財団法人
 文化財高度確保技術協会





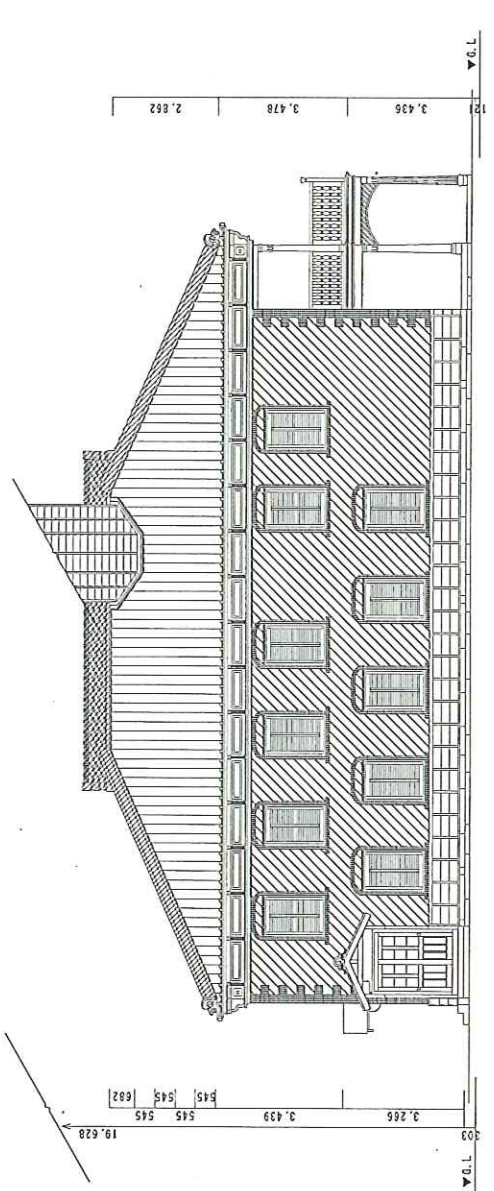
東立面図

1.818 1.818 3.636 3.636 1.818 3.636 3.636 1.818



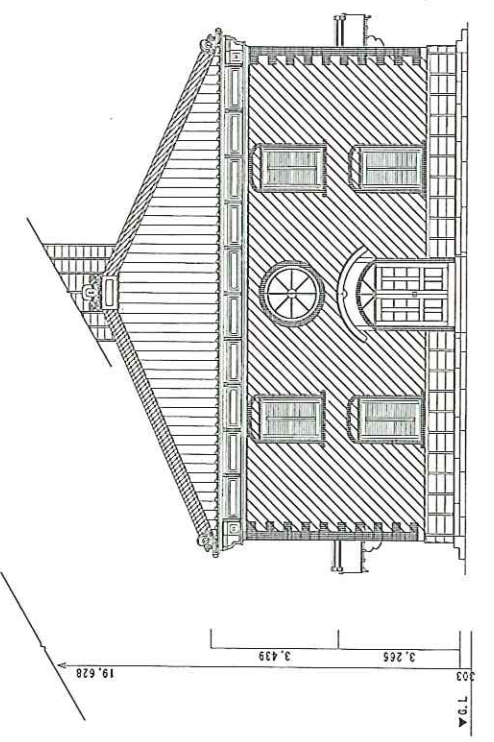
南立面図

1.818 1.818 1.818 1.818 1.818 1.818 1.818



西立面図

1.818 1.818 3.636 3.636 1.818 3.636 3.636 1.818 1.818



北立面図

1.818 1.818 1.818 1.818 1.818 1.818 1.818

外壁仕上げ	既成土壁に珪藻土塗り (中塗り仕上げ)
窓	既成木枠に珪藻土塗り (中塗り仕上げ)
屋根	大板、珪藻土を敷き詰めた瓦葺き
床	珪藻土を敷き詰めた土間
柱	珪藻土を敷き詰めた土間
壁	大板珪藻土 高56cm×幅1.0m
床	珪藻土 高40cm×幅60cm×厚2.0cm

図番	44/39
種別	5-1
作成者	中野建設事務所
作成日	2019.10.10
縮尺	1/100
備考	旧中央区立中学校跡地復元工事 外壁・屋根・補修図面 公衆利用計画 文化財調査報告書作成単位表

0 1 2 3 4 5M

平成25年度 文化財の補修等について



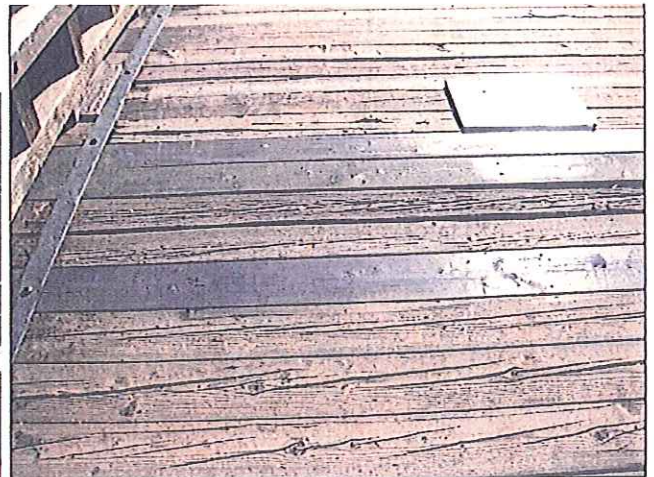
○高良社(旧八幡神社本殿)
指 定:国重要文化財(昭和17年12月22日)
所在地:佐久市蓬田
所有者:八幡神社
八幡区により、軒下部分への薬剤の塗布による防虫処理が実施され、佐久市文化財保護事業補助金を交付した。



○倉沢薬師堂
指 定:市有形文化財(平成10年4月30日)
所在地:佐久市前山
所有者:貞祥寺
現在の屋根は昭和55年に茅葺にかけたもので、平成7年の塗装後17年が経過しており、錆の発生等が懸念されるため、管理者である前山南区により塗り直しが実施され、佐久市文化財保護事業補助金を交付した。



○島崎藤村旧宅
指 定:なし
所在地:佐久市前山
所有者:佐久市
屋根峰部分の傷みが激しいことから、棟瓦・軒瓦の交換・修繕及び野地板の交換を実施した。
平成26年度は、4月19日から11月3日まで開館(月曜日・木曜日休館、祝日の場合はその翌日)



○龍岡城跡
指 定:国史跡(昭和9年5月1日)
所在地:佐久市田口
所有者:佐久市
大手橋橋板の傷みが激しいため、平成24年度から交換を行い、平成25年度は4本の橋板の交換を行った。
今後も、緊急性の高い箇所から実施する予定である。